



ケニア

BOP実態調査レポート

他のアフリカ諸国と同様に、ケニアの社会・文化は豊かで興味深く、また魅力的である。誕生、結婚、死といった人生の重大な節目への対応は、人によって、また民族的な背景や宗教、慣習によって異なる。

誕生

子どもは恵みであり、社会の継続性の保証であると一般に考えられている。ケニアの2011年の出生は人口1,000人当たり31.93人であった。産婆や経験のある親族の女性の助けを借りて、出産を自宅で行う時代が長く続いたため、子どもも妊産婦も出産に関係する合併症による死亡率が高かった。政府、民間団体、NGOやその他関係者が、長年にわたり状況の改善の努力を続け、大きな成果をあげている。現在は適切な医療を受けられる妊産婦が増加し、死亡はかつての人口1,000人当たり300人から、現在は43.61人にまで低下している。



大多数の人々の生活水準が低いことから、妊産婦医療は効果的に手頃な費用で行う必要がある。治療は、社会のあらゆる階層を対象としており、その質と費用は様々である。BOPの居住地域の費用がわずか20シリング(Ksh)の医療施設もあれば、50万Kshもかかる特別な医療施設まである。費用の負担方法として保険があるが、健康保険に加入可能または加入している者はごく一部である。国民健康保険基金(NHIF)は、所得に応じた保険料を毎月支払うことで加入でき、非常に役立っている。同基金は加入者に医療費を規定に応じて支払っている。保険分野は大きな可能性を持つことから、民間の保険会社が参入してきている。民間保険会社は、従業員とその家族に保険を提供する企業を主な対象としている。

子どもの誕生は、各地で様々な方法で祝われている。伝統的な儀式が一般的であり、どこで誰が何をいつするかが決められている。一方では、ベビー・シャワーなどの現代的な祝い方も受け入れられている。神に感謝したり子どもを神に捧げるための特別なお祈りを行う宗教的儀式として祝宴を開くことが一般的に行われている。



結婚

結婚は、夫と妻として2人が一緒になる人生で2番目に重要な出来事である。社会は結婚を神聖視し、結婚は社会における重要性と妥当性が認められた印として祝福される。



■ 傾向 ■

結婚の最低年齢は18歳と定められている。教育などの啓蒙活動により、男性は学校に通い職を得てから、女性も同様にどちらも結婚できる能力を身に付けてから結婚するようになってきている。結婚する平均的な年齢は25～35歳。特に都市部の若者に見られるもう一つの傾向は、異なるコミュニティ間の結婚であり、結婚に対し伝統的な考えから抜け出し現代的な考え方をするようになってきていることである。例えば、伝統的な結婚式をあげずに、裁判所で直接、より安く、より明確な結婚をする夫婦が増えている。

■ 形 ■

以下のような結婚の形がある。

法律上の結婚: 婚姻法などの法令に基づいた結婚

- ・ 市民婚: 裁判所／司法庁で行われる結婚式。
- ・ キリスト教婚: 最も一般的。伝統的な結婚の側面もあるが、教会の儀式として行われる。
- ・ ヒンズー婚: ヒンズー教徒コミュニティで行われる。
- ・ イスラム婚: イスラム教徒コミュニティで行われる。

慣習婚: 伝統的に行われ、順法で個人の権利を侵害しないすべての結婚が含まれる。

見なし婚: 共同生活を営むことに合意した2人の分別ある成人の間の約束であれば、正式な結婚でなくともすべて見なし婚として認められる。法律では、当事者が一定期間(2012年現在審議中の法案では6カ月)共同生活を営んでいれば認めると規定している。

■ 費用 ■

結婚は費用のかかる行事である。費用は、式の種類、披露宴の規模、場所や衣装により異なる。簡素な宗教的儀式抜きの市民婚の1万Ksh程度で済むものから、富裕層の華やかな式のように数百万Kshをかけるものまである。通常、新婚旅行と持参金は含まれていない。大部分のアフリカ社会では、持参金は新郎とその家族から新婦の家族への感謝の形と考えている。持参金の要求は、両親や年長者の関係者によって決められた後に行われる。大部分のコミュニティは、牛などの家畜やその他の食品、場合によっては伝統的な地酒を要求する。

以下は費用の例である(ナイロビのBuruburu Phase 4 地区に住むAlex LiyosiとMiss Lilianの結婚式)。

項目	費用(Ksh)
式場(教会、受付、写真撮影場所)	102,000
ブライダルカーを含むハイヤー6台	20,000
料飲	100,000
衣装(新郎、新婦他)	86,450
教会への謝礼	15,000
企画、輸送、諸連絡など	48,000
合計	371,450



死

死は、生命の消滅という重要性から多くのコミュニティで恐れられている。コミュニティでは一般に死に対して悲観的な態度が取られるが、敬意を持って扱われる。ナイロビ大学の共同研究によれば、ケニアの平均寿命は64歳である。

コミュニティが異なると、死の扱い方もそれぞれ異なっている。大部分のコミュニティは死に敬意をもち、埋葬、火葬、霊廟での保存などの方法で死者を見送る。



■ 費用 ■

他の通過儀礼と同様に死は丁重に取り扱われる。費用には、遺体の安置、検死、遺体と会葬者の墓所への輸送、火葬または埋葬の料金等がある。

次の表は、ナイロビで死亡し、西部州のKapsolに埋葬された男性の葬儀費用の例である。

項目	費用 (Ksh)
遺体安置所 (1,200 Ksh / 日 × 7日)	8,400
葬儀サービスパック (ミニバン2台、霊柩車、棺を含む)	50,000
料飲	20,000
雑費	11,600
合計	100,000

注: ケニアでは火葬は一般的でなく、キリスト教徒やイスラム教徒を含めて土葬が多い。ヒンズー教徒や遺書や生前に言い残していた一部の個人は火葬される。火葬は特別な場所で行われ、費用は2万Ksh未満である。

JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。